いわき民報

發行所
いわき民報社
（平市田町一番地（電話三八一番））
編輯兼發行人
兼印刷人　千輝克己
日刊　但月曜日を除く
定價　一ヶ月　五円　一部二十錢

星製薬株式會社
福島工場
平市五丁目二八
電六六八・三五三

商工會議所の設立決定
廿八日平市公會堂に創立總會

平商工會議所設立準備會は、十一日公會堂に發起委員會を招集委員長に山崎與三郎氏を擧げ二十一年度豫算六万百四十圓を計上設立發起委員を左の四十三氏を決定し創立總會を二十八日午后一時から平市公會堂日本間に開く事に決したが之に先だち管内業者に案内狀を發送趣旨の徹底と勸誘を期した、發起委員は左の通り

伊藤秀吉、萩原義雄、諸橋久太郎、金成通、山崎與三郎、猪狩庄平、柴田德二、阿部政右エ門、諸橋祐一郎、佐藤源吉、馬目武之助、關内榮助、關内正一、蓮沼龍輔、佐藤三平、福地敦、中村芳平、寺内定藏、鈴木條三郎、野崎滿藏、渡邊重三郎、正木昌次郎、鈴木唯治、芦澤貞夫、松本德一、清宮一郎、赤津庄兵衛、御代定吉、吉田恭平、吉田勝彥、佐藤直之助、吉田清彥、小島硯、岡田千早、大越新、伊藤文健、服部梅雄、古川傳一、坂本龜太郎、上田善次郎、門馬直記、管野榮得、塩政助

麥の供出俄然躍進
不振七ケ町村除き見透しつく

郡下の大、小麥供出は平署、農業會支部、地方事務所等の督勵行脚に依り、十五日の最終期間をまへに漸く熾烈化し十三日現在で川前、豊間、鹿島、田人、勿來、永戸、箕輪、川部及び平市の八ケ市町村が完遂、大麥平均七十二%、小麥六十九%となつた、夏井村の九十八%を筆頭に、今明日中に完遂する町村は四倉、大浦、高久、江名、小名濱、赤井、好間等七ケ町村で最も不振な町村は植田、磐崎、草野、神谷、湯本、泉、上遠野の七ケ町村となつて居り、なかでも神谷村のみが辛うじて完遂し得るか否かの境にあり問題視されてゐる、殘る全町村は全農民を擧げて割當完遂に努力して居り不振町村を殘しての完遂は刻々迫つて時間の問題となつた

不振町村へ
全力結集

自主供出を督勵

植田町ほか六ケ町村の不振町村に對しては關係當局でも惱み拔き、全力を結集し督勵し行脚を今後も續けて飽迄も自主的供出に努めてゐるが、現下の食糧事情を訴へて拒む農家に對しては徹底的に臨檢、惡農の名にかけて斷乎たる處置をとることゝした

平の供麥完遂

平市の大、小麥、及び馬鈴薯の供出は市の督勵班が繰り込んで全農民に現下の食糧事情を訴へただけに熾烈をきはめ十三日現在で大麥千四十六俵、小麥二百五十八俵、馬鈴薯二千五百九十三貫の割當を見事完遂凱歌を擧げた

甘藷の供出

督勵班も繰出す

増配必至の米穀年度をまへに、この端境期の突破は早場米といもの供出如何にかゝつてゐるが、郡下における十三日現在の早掘甘藷の供出狀況は植田町の二百八十八貫を筆頭に田人村の八十四貫等、一路供出街道を驀進してゐる、二十日前后から食糧支所、地方事務所の督勵班が繰り込んで早掘り目標二十一萬三千貫必達を期し一大供甕戰が展開される

西岡師範教授を聘し
好間村青年會十五日臨時總會を

郷土の明るい新文化の建設は若人の手でと好間村男女青年は今度は好間村青年會を結成、親睦會等とも密接な連絡を保つて活潑な開始を開始したが、來る十五日同村第一國民學校に臨時總會を開催、午前中今後の活動方針等を協議、縣師範學校男子部長西岡教授の講演を聽講午后は團員の意見發表、藝能祭等を執行することに決定した、尚役員は左の通り

▼會長堀重好▼副會長志賀二郎、高萩好江、關部八重子

演劇專門の民衆劇場

紺屋町の燒跡へ
既に上棟式擧行

演劇專門の舞臺をもたぬ市民に今度唯一の舞臺が提供されることになり、十二日午后三時から盛大な上棟式が擧行された、右は紺屋町の燒跡に佐藤常雄氏に依り建設されるもので六間に十五間で觀客七百二十名を收容、舞臺は六間の大きなもの、事務所、控室、便所等は全然別棟とされる極めて近代味豊かな衛生に富んだものとあり早くも期待されてゐる

お酒の配給

十四、五兩日に

市民待望のお酒の配給は醸造元の都合で日割を變更、十四、五の兩日配給される、量は一戸當り男世帶二合、女世帶一合の割、値段は一合三圓

ゼネスト準備に狂奔
交捗決裂必至と見る平驛地區聯
決行せば十五日午前零時期して

國鐵のゼネストが果して十五日決行されるか、十二日から開始された兩者の再交渉は國民的關心をあつめてゐるが、交渉決裂必至と見て平驛地區聯は着々準備を進めて居り、万一決行されると十五日午前零時から十六日午前零時まで國民の歩も、郵便も貨物も、食糧の輸送も一切運動が停止される、平驛關係では十五日午前零時三十分平驛通過上り上野行（仙臺發準急）平驛で停止するのを初め上下各列車共全市午前零時を期して最寄り驛へ停車する、ダイヤの復活は十六日午前零時を目標に置かれてゐるが、相當困難を豫想され、驛鬪爭本部は旅行者に對し次の如く注意を喚起してゐる

十四日から十五日に至る旅行者の切符は賣らぬ、荷物も同樣、十五日全然切符も荷物も扱はぬから長距離旅行者は注意されたい

煙草組合表彰

堆肥増産團体も

專賣局平出張所ではこの程葉煙草増産に敢鬪した上遠野村久保第一耕作組合ほか左記二十團体に褒賞を授與した、尚堆肥増産に優秀な成績を擧げた團体及び個人にも近く表彰狀を贈る

▲一等上遠野村久保第一▲二等磐崎村寺方木戸村小田濱、大浦村大森、勿來町錦田第一▲三等久之濱町金ケ澤、赤井村西小川、上遠野村姉澤、泉村町坪、高久村馬塚、上小川村横川、入遠野村提林、植田町合田、小名濱町田、龍田村下繁岡、大野村山田、山田村下山田、渡邊村釜野、大久保村小山田

▲賞狀　廣野村折木改良團体　渡邊村松小屋改良團体

火災季控へ
防火の注意

市内に發生した一月から八月までの火事を警防團の記錄にみると計八件にも達してゐる、火災の原因は大部分が失火でそのうちでも焚火が目立つて多い、これは防火施設や資材の不備不足にもよるが終戰で弛緩した精神の快復してない證據であり多いに反省の要がある、市ではいよ〳〵火災の季節を迎へて防火精神の昂揚、夜警の實施、防火用水の準備などについて通牒を發し未然防止に乘り出した

引揚聯盟世話人會

海外引揚聯盟磐城支部では九日日本間で授産事業のミシン縫工者の募集、合作社消費組合、瀬戸物の無料配給、住宅問題等に付き世話人會を開催した

古河炭礦の赤痢禍
隅田川炭礦にも傳染蔓延の兆

去る七日以來好間村大字北好間の古河炭礦に發生した赤痢禍は十二日現在で二十二名に及び共同便所の使用は今後益々蔓延の恐れあり事態を憂慮されて居るが同礦上の隅田川礦にも七名の新患發生を見保健所では液体DDTを撒布防疫に務めて居るが樂觀を許さない狀態にある、患者は十五才以下の少年、幼兒に多く江名町、市内鎌田町と類似の傾向にあるが原因は不明である、好間川の使用は即日嚴重に禁止された

小島馨一（四）大關トシ子（八）橋本法子（八）植田享男（二三）磯目トシ子（一三）大關正（五）二）十文字賓（一四）瀬川五郎（二）十文字藤男（六）西丸徹一（二六）長沼藤男（一三）十文字清（三）高力榮（一九）白井カネ（二八）柴森エン子（三）關要七（三八）矢内秀雄（二〇）野本トシ子（二〇）金澤トヨ子（一四）山口泰子（一二）江而マン（四四）石塚秋男（一七）川村正男（五）矢内志郎（一一）

蛆入りパン
即時引換へ

十二日五丁目新川町の一部に配給になつた食パンは、製造工程の一部不備のため蛆虫の混入並に湧き居る物を發見、營團では早速之が回收方を隣組回覽板を以て通知したが受配者は配給所で直ぐ取換えて貰ふ樣

いわき寸言

▼赤痢禍各地に蔓延、古河、隅田川、常磐各炭礦にも及ぶ、食糧事情の窮屈な折柄、憂ふべき狀態、市郡民協力防疫に全力を注ぐべし

▼麥の供出漸く躍進、不振町村七ケ町村を除いて大体の見透しつく、嬉しい限り、不振町村も協力郡市民のために完遂せよ

▼縣案の商工會議所いよ〳〵二十八日創立總會の段取りまで進む、商平市の建設のために喜ぶ、名前倒れとならぬやう最初からシッカリ一歩を踏み出して欲しい

▼小名濱臨鐵いよ〳〵十三日から業者に入る、大衆の支持を失はぬやうすることが第一、所謂の爭議のための爭議となる勿れ

製函材　製造
建具類
特に大量注文に應ず
石城郡四倉町本町
常磐函材株式會社
社長　高山弘
四倉工場
電話四倉五〇番

賣家
一場所　平市舊城跡
一建坪　二十坪平家二戸建
一戸八疊、六疊玄關付
一戸六疊、四疊半、玄關付
双方共野菜園付
◇目下新築中今月中に完成
◇希望者は至急申込まれ度
平市田町五
平土地住宅有限會社
電二〇二番

此の度復員し從前通り
左記に依り開業致しました
内科
小兒科
志賀醫院
志賀政光
平市南町　電二六二番

秋の鮫川
鮭漁期迫る！
豪快な地曳網
植田町佐糠海岸
鮫川誇揚會
植田驛前案内所
若松屋旅館
電話五三番

磐中第三十七回卒業生に告ぐ

本月下旬同級會開催（日時場所未定）の豫定に付同級生は左記迄安否消息連絡ありたし

平市マルトモ　柴田旭雄
福島市下町一六食糧營團　飯島司康
湯本町食糧營團　比佐幾造

昭和二十一年九月十三日
磐中三十七回同人會

味噌・醤油・野菜の今後は

米の増配に伴ふ見込みを聴く

十一月からの米の増配二合五勺の影響は、各方面の闇値の下落と共に國民生活の安定感を著しく高めて居るが之と同時に欲は云はないが味噌、醤油の増配も願ひたいのが人情だ、だが大豆の作況不振を傳へられアミノ酸の製造が上昇してない現状で果たして増配出來得るか、野菜の出荷組合も組合員の懸命の努力にも拘はらず夏枯の後で出廻らず折角の努力も空しい状態だが何時になつたら出廻るか主食の増配で却つていらなくなると云ふ珍現象は出て來ないか、以下各方面の見込を當つて見る

味噌　増配見込みなし

豆の作は反別減少が影響

月の配給は七、八月と同様で千七百九十七貫匁で一人當り八十匁、今年は豆の作付反別減少のため當分増配は見込みありません、但し減ると云ふ事は絶對ありませんが増配は期待しないで貰ひたい。

醤油　或は少量の増配は

今後は冠婚葬祭用も割當

も前月同様で割當は七一石一で一人二合宛は確實です、夫代用醤油の製造が順調で今迄殆んどなかつたと同様の冠婚葬用の特配が今月は一石三斗割當てられて居り、目下の所確實な數字は掴めないが少量の増は考へられる、但し十月頃は難かしいが暮頃の米の増配時期には何とか嬉しい便りとなるかも知れませんがまあ當分増配は期待しないでおいて下さい

野菜　中旬以後に期待を

郡外各地の入荷交渉も纏る

折角出來た出荷組合も夏枯れにつて出廻らぬ爲、市民に不自由かけた頃は殘念ですが人力の及ばぬ所で致し方ありません、現在の配給率は豫定の五十匁に對して半分の二十五匁強程度ですが、之からは愈々秋蔬菜の本格的出廻り季節ですから期待して下さい、郡外各地からの入荷交渉もまとまり、中旬すぎには大根、白菜の各種を市民の食膳に充分とは云へないまでも相當量送る計畫です、今は野菜は主食の代用となつてゐるので通常の需用以上に必要量を求められますが十一月のお米の増配が實現されればそんなに不要なくなるかも知れません、其時には却つて余つて自由販賣が多くなるかも知れますが其の頃は又冬枯れになつて又尠なくなるから自然と云ふ妙味は良く出來て居ります、お米の増配に附隨して野菜の増配と云ふ事は考へられませんが以上の様な變態現象は考へられるかも知れません、まあ中旬頃まで現状維持ですが中旬以後は御期待下さい

開放

投書を歡迎す
要望批判結構
紙上匿名可

文化運動に就いて（上）

松藻會の文化運動に就いては本に於て會長□波氏から老生に對し眞摯なる所明があつた。率直に申せば老生等の考へてゐたことからみて、諸氏の思索はいろ／＼な面で格段の相違が感じられる、相違といふことはよい意味での青年時代の若さのことだ、これは老人からみて實に羨いかぎりである。例へてみるならば諸君の理想なり言論は諸君の若き行進曲である、我々老人は路傍にあつて諸君の颯爽たる青年行進に聲援する位の役割が相當なところであらう。併しながら事は目的から馴れて曲りやすいものだ、禁然たるべき行進がいつのまにか□然とした狂進になる場合も往々ある、そこで老生の苦言？も狂はぬ前の豫防ぐらいに考へてほしいのである松藻會の所謂『文化□動の政治的關心』には諸君の言はるゝとり、四倉町の多方面で特に老壯年間に相當異論がある、しかし老生等は諸君の理念が誤つてゐると斷ずるものではない。異論者は荒つぽい常識で事物を批判したがる習慣がある、これは老生なども同様であるが、從來我々の見解による文化の研究と揚といふものは、音樂、美術、演劇、映畫の觀賞や、歌、小說等の創作批評などで、物的には金のあるやつは『文化住宅』にでも住み、文化生活――その實は金にあかせて贅澤三昧な生活をやる、これは往年の享樂的有閑人や、榮養失調氣味の我々をしがらせてゐる、敗戰の特産物たる、戰争暴富者か闇成金等のやる生活享樂とたいした變りはないやうだ、尤も之にはこんな文化生活に憧れてみたところ出來ないことは當然である、そんな話からでもあるまいが近頃は文化の階級性云々が論議されてゐるからこれも諸君の課題となることと必然であらう（未）

武藤豊

お役所仕事の好例

時期遲れの蚊帳分配に

戰災 引揚者 有難迷惑

市内の戰災、引揚者にとんど蚊張が一張四百圓で特配になつたが資産凍結の引揚者や家財をつた戰災者は就職の道もなく少い身廻り品を賣り喰ひしてゐる人達が多く折角の特配もあまり關係者には嬉ばれてゐない

蚊のゐるうち特配になるならまだしも、蚊帳の必要がなくなつた頃[illegible]とはあまり虫がよすぎますよ、まだ／＼机上ランが[illegible]け切れませんね

とは一戰災者の話

生活と文化

一茶の句にみる童心

雫石太郎

（一）

終戰になつて既に一ヶ年各種の研究が復活してきた。戰争中は縁の遠い文學の研究はしば／＼忘れられ勝ちであつたが平和が回復してからはかう云ふ研究も始められゆつたりした情緒も持たねばなるまい。最近本紙に寄稿せられた千葉氏の『國文學に拾ふ子供への愛』に大いに啓發される所があつて十數年來親しんだ俳名から、しい研究を記して世に問うてみたい。

一茶は私のすきな俳人の一人で一茶を知つてから已に二十年になる。最初に讀んだのは『父の終焉日記』で最初は『一茶研究』『一茶春秋』等を讀んだ。』ものでは數知れず拾ひ讀みしその句風にあこがれ童心の句に親しみその境遇をあはれんだ。いつかはその生地柏原をたづねその遺蹟を[illegible]つてみたいと思つてゐるが未だその機會を得ないのが殘念である。一茶は小林氏諱は信之、通稱彌太郎、別號坂階、菊明坊、二六庵、亞堂、俳諧寺一茶。信州柏原の小農彌五兵衛の長男として生れた。三才の秋、實母に別れ、祖母に養育され、八才の時繼母が入縁し翌々年に弟仙六が生れたため、次第に繼母にうとまれ、幼にして人生の慘苦をなめる身の上となつた。從つて彼の句にはひねくれた所があり、弱者に對して同情し限りない愛を寄せた所が數多い。

われと來てあそべや親のない雀

六才の時の作と云はれるが、實母の愛を知らぬ心持が如實に詠ぜられてゐる。この句を詠つた時から繼母が來て、以來繼子として扱はれ、しひたげられ幼時より人生の慘苦をなめた。從つて繼子に關する句が多い。

まゝつ子のつぎだらけなる雁
繼ツ子や涼み仕事に藁たたく
繼ツ子は砧に馴れて腹たりけり

の類は皆親身の親の愛を知らざる悲痛なる叫びである。一茶の一生はこの繼子根性を以て貫かれてゐる丈あつてひがみがあり物事をいびつにみる癖があり、雁や鹿などの心ない動物にさへその根性を表してゐる。

雁わや／＼おれが噂を致す哉
雁どもや御用をかさに來て騒ぐ
雁が來た國の布子はなぜ遲い
おれが方へ尻つんむけて鹿のなく
我なりをうさんと見てや鹿の呼
さをしかやそれほど遊ずともよいに、

然し一茶の句の三分の一位は子供の心になつて詠つてゐる。現今の言葉でいふ諷詠人である

雀の子そこのけ／＼お馬が通る
露めしをたべにおりたる雲雀かな
おんひら／＼蝶も金毘羅まゐりかな
やせ蛙負けるな一茶こゝにあり
子供よ精出してふれ蠅は盆
おん首に蝶が三匹とほまつた
初螢何故きかへす怒れたぞよ
朝やけが喜ばしいか蝸牛
赤い月あれは誰がのじや子供達
下りよ雁一日散に我が前に
おとなし留守をしてゐる
お祭にたい出たちのとんぼ哉
あとの人三つ三つ拾ひ
どんぐりのねんねんころり／＼散
うまさうな雪がふうはり／＼と

「母の愛」

白石能夫

弟友昭と末弟、常秀とが一寸した言ひ爭ひから遂に腕力爭ひとなり、結局末弟の常秀は弟の平手打を喰つて泣かされてしまつた。父は、初の中何喰はぬ顔で二人の言ひ爭ひを止め様ともせず、見守つて居たが末ッ子の常秀が、泣かされたのを見るや顔を眞赤にして[illegible]つてしまつた『此の馬鹿野郎！中學三年にもなつて、可弱い弟をいぢめんなんてとんでもない野郎だ！』將に友昭を打たんとして立ち上つた瞬間彼はうまく横に逃げ出て眞暗闇の庭先へと姿をして行つた。父は腹の虫が治まらないらしく、ブツ／＼言を云つて居た、常秀は未だ泣いてゐる、『お前は負けるの本知で兄に手向かふからこんな態になるんだ』――父の一言は不知の中に飛んだ。私は此の突然の出來ごとに何つ意見せず默知し居たが、時過ぎになつても戻らぬ友昭を心配し出した[illegible]私の許に囁いた、[illegible]してお[illegible]くれと云ふのである、一時間も過ぎたので父も機嫌が[illegible]つたらしく、幾分自分の態度を後悔してゐるらしい、『友昭も悪いのだから默つて放つて置いた方がいゝ』さう云つて私は相手にもしなかつた。時計は十一時を打つた。未だ友昭は歸つてこない。何度話しても一向にしてくれ様ともしない私を見て、母は單身暗い外に出た。ものの三十分も經過したであらう、弟も母も歸らない。私は父が床に就くや否や急に母の事が氣になり出したので電燈を持つて外に出た。見ると、どうであらう、母は宛ら狂ひ人の如く我が子を見出さうと、藏のかげや、納屋の中を隈なくしてゐるのだ。其れを見た私は其處に棒立ちにされてしまつた。やつと我にかへて静かに居の方へ歩み出した。居の中に入つて見ると、弟は何知らぬ顔で輕い鼾さへ立てて静かに眠入つてゐる。母の捜してゐる等はよそ事の如く――『母ちやん、友昭はどつくから河童だよ。』私は笑顔で、母に此の言葉を投げかけた。母は、さも嬉しげに笑顔と、やつと安心して家の中へ入つて行つた。あゝなんと云ふ大きな母の愛であらう。溢れるが如き母の愛……私は其の後姿をじつと拜んだのである。初秋の夜空にこぼれる程の星がキラ／＼とまたたいてゐた。どこかで、ねぼけ鶏が『コケコーー』と一聲を上げた。

られて出て行きたりし我が子をば
ひつ附はあはれも

お買物は皆様の
化粧品、固型洗劑、人形
調味料、小間物、各種雜貨
▽電器部新設△
中四丁目
電二六八
やまよし

病（やまひ）
一、原因　病氣種別　醫師診斷
一、くすり　家庭藥、醫師處方藥
一、手當法　本人の營養、看護衛生
有家庭衛生資材並に其の他相談に應じます
日本健民厚生協會指定
生盛藥劑株式會社指定
平市田町（銀座通）
あこう藥局
藥劑士　阿部康雄
電話四十四番